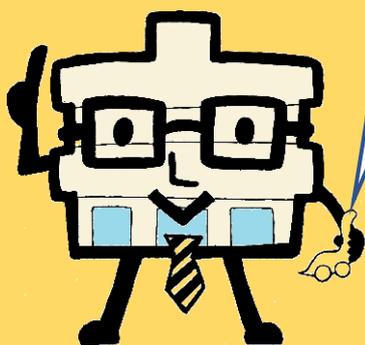
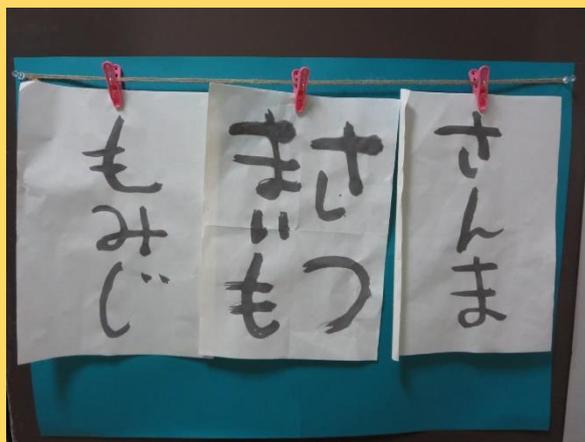


# 大泉あさひで通信

発行：社会福祉法人 大泉旭出学園 旭出生産福祉園 〒178-0063 東京都練馬区東大泉 7-21-32  
TEL：03-3925-6166 FAX：03-3925-6169 ホームページ <http://www.asahide.or.jp/>



利用者余暇活動  
作品集です



## 「残されている夢」の碑と 生涯教育と生涯福祉

旭出生産福祉園園長

浅井 浩

### 三木先生の教育福祉論

旭出学園の創設者である三木安正先生は著書等で「教育」と「福祉」と並べると、それらは同じ水準であつて違った領域の仕事のように考える人がいると思うが、「福祉」というのは目標であつて、「教育」というのはそれを達成する手段であると考えたほうがよいと思う」という趣旨のことを述べています。先生が病気で亡くなられてから38年の年月が経ち、お元氣だったころの先生を知る人も年々少なくなりつつありますが、学校正門を入ったロータリーには、先生のお顔と先生直筆の「残されている夢」という文字が刻まれた大きな碑が建っています。

「残されている夢」というのは、三木先生の晩年の著書(昭和57年5月20日発行)の題名です。それは学園の将来に向けた施設整備に関するハードの面をどのように仕上げるか、そのための資金的工面をどうするか、ハード面に伴うソフトの面をどのように確立するか、と思索していることを夢として記すことで、あとは残った者でしっかりと引き継いでいってほしいとの先生の思いが込められた書だと思えます。引用すると、「学校、施設の運営で一番大切なことは優秀な教職員の確保であり、もう一つは、指導プログラムで、生涯教育、生涯福祉の指導計画とその内容の主要部分となる作業のことである」とあります。

生涯教育と生涯福祉については後述のようなことですが、「指導計画とその内容の主要部分となる作業のこと」とは、いったい何を言わんとしているのかという点が大切です。それは、一般的な学校教育の場で

行われているような教科指導的な方法に偏るのではなく、何らかの作業をとり入れた指導によって生活に目標をもたせて、やる気(意欲)を育てることが、人間の成長のためには効果的であり、そのためにはどういう作業をどのように導入するかが重要であるという考えを述べているわけです。つまりここでいう作業とは、ある目的をもつて仕事をする(働く、活動や行動する)ことと解釈すれば、その仕事の内容は、生活上の目標となるもので、何らかの有意な価値があり、やりがいのあるものであれば、家事や身辺処理、創作活動等を含む多様なものごとを考へることが出来るはずです。それらのものごとをどのようにとり入れ、どのように指導上の作業や仕事に仕立てるかという工夫が大切だということだと思えます。

また知的障害については、「種々の能力、ことに知的能力をびっくりするほど発達させることはむしろ難しいが、そのような諸能力をフルに活用して生活能力を高め、生活目標をはっきりさせていくには、もっている能力に指令を出し、また自己を統制していく、自我の核となるものを育てていかなければならない」として、そうした人間形成を目指す取り組みが「私の一番大きな研究課題である」と述べています。

### 生涯教育と生涯福祉とは

三木先生のいう「生涯教育」とは、一定の年限に区切って行われる学校教育のように、その区切られた期間が経過すれば終了するというような教育観による教育の内容や方法に固執しない体系的な取り組みが、知的障害者の生活においては必要で大切だという考えに基づくものです。これは旭出学園が当初に掲げた「卒業のない学園」ということにつながると思えます。

人間の成長発達とは、単に身体的に成熟するということではないわけで、いわゆる「自我」の発達により、主体性あるいは自発的な意思に基づく向上心や、

自制心(自律心・自己統制力)、社会適応力などが高まってきました。しかし知的発達に遅れがある場合は、そうした発達にも遅れが生じ、結果的に、その生活は周囲に依存的になり、その影響を強く受けることになるために、そうした生活環境的条件に配慮した支援が必要だということになります。

つまり、三木先生のいう「生涯教育」とは、主体的または自発的に自分の生活の充実や向上を図っていくことに困難を抱える知的障害者とその生涯において、それなりの生活意欲や態度をもつて生活しているように必要に応じて学習の場や機会が得られるような教育的な配慮及び取り組みをいうわけです。

なお、「生涯教育」という言葉は、戦後の国際的な教育に関する取り組みのなかで、すべての年齢層を通して教育的に働きかけていくことの意義と必要性が考えられるようになり、日本でも昭和40年代に入ってから、社会教育という言葉とも相まって広まったのですが、現在は、「生涯学習」というのが一般的のようです。その違いは、生涯教育というのは教育を施す側に立った言い方であり、生涯学習というのは自ら積極的に学ぶという教育を受ける側に立った言い方であるということになります。

では、「生涯福祉」とはどういうことかといえ、そもそも福祉とは、人の幸せを意味する言葉です。

人の幸せとは、人によってそれぞれ、様々だとしても、人はだれもが生まれながらにして、むしろ、障害の有無に関係なく幸せに生きる権利を有しています。それを人権というわけです。

したがって「生涯福祉」とは、知的障害児者の人としての権利を確保し、その幸せというものを生涯という、いわゆるライフステージに沿って追求していくこととの思いを込めた三木安正先生の造語といつてよいと思います。

「生涯教育」と「生涯福祉」は旭出学園運営の「幹」となる理念を表す言葉でもあるわけです。

青 葉 の つ ど い



令和4年5月20日金 に、第72回青葉のつどいが行われました。今年も昨年の青葉のつどいより一歩前進しよう！と委員で話し合い、晴れたら式典はグラウンドで行うという計画を立てました。式典はグラウンドに参列する人、オンライン配信で参加する人にわかれました。当日は、お天気にも恵まれ、グラウンドで行った式典は3年ぶり。今回はグラウンドでの式典をオンライン配信し、各科で参加された利用者さんも一体感を感じられたことと思います。

式典の後はオンライン配信を活用して、なかなか会えなくなってしまった旭出の仲間と会話しよう！と 旭出オンライン交流会」を計画。楽しい学園生活をテーマに紹介し合うことにしました。初めての試みでしたのでドキドキしましたが、各部各科にスポットライトを当てて自由に紹介。画面を通して、久しぶりに元気な仲間の姿が見られて皆さん楽しんで参加されていたのが印象的でした。利用者さんからも 楽しかった！という声が聞けてとても嬉しく感じました。

「コロナ感染が早く終息し、今まで通りの賑やかな合同行事ができるようになることを願うばかりです。」

青葉のつどい副委員長 福田)



三木先生を偲んで～福祉園ができるまで～パワーポイントを使い、建設中の福祉園本館や昔の学習発表会の様子が紹介されました。



しおりを見ながら ZOOM での式典です。



午後はゲームやプラバン作り、三木先生との写真撮影などを楽しみました。



昼食は皆さんの好きなメニューがたくさん入った「青葉特製弁当」でした。



# あさひで サマーフェスタ



7/4～7/8日新棟建設を前に、旧建材棟を活用して製品販売とお楽しみ会の **あさひでサマーフェスタ** を開催しました！

久しぶりの製品販売での買い物やプラバン作り、的当てゲームに七夕の短冊などを利用者さんや特別支援学校の生徒さんが楽しんでくれていました。

また、保護者の方にもたくさん来ていただきありがとうございます。その際にお店番をしてくれた利用者さんは、張り切って活躍してくれました！（石川）



# 納涼会

入所部では8月28日に納涼会を行いました。

当日は朝からあいにくの雨でしたが、それを打ち消すような盛り上がりでした。盆踊りの時間は太鼓を叩いて、みんなで輪になって音頭を取りました。

出店ではソーセイジワッフルとたこ焼き、デザートではスイカが入ったフルーツポンチが提供され、とても美味しそうに召し上がっていました。

ゲームでは射的と風船を使ったスイカ割りを楽しみました。

景品でお菓子の詰め合わせを受け取り、とても嬉しそうな様子でした。

私自身、旭出に入職して初めての行事参加でしたが、利用者と一緒に楽しい時間を過ごす事が出来ました。(花田)



今年の納涼会も盛り上がりました

みんなで輪になって、盆踊りを楽しみました。



紙風船を使ったスイカ割りをしました。



おいしく食べてね

出店の食べ物おいしくいただきました。

(今井)

### 社会自立促進センター

現在、新棟建設に伴いけんざいとまんまるが活動場所として社会自立促進センター(通称・センター)を利用しています。

しかしセンターという建物について詳しくご存じでない方もいるかと思えます。そこで今回は「社会自立促進センター」について簡単ではありますが紹介しようと思います。

センターは昭和61年に赤い羽根共同募金の補助を受けて建てられました。入所棟の南、けやき棟の横にある二階建ての建物で、各階に共同スペースと居室があります。

現在は1階ホールをけんざいが、1階事務室、相談室をまんまる(Aグループ)が、2階を旭出生活寮が利用しています。過去には環境支援科の活動場所としてや、ショートステイの受け入れ場所、スヌーズレン室として利用されてきました。当時は現在の入所棟はまだ建っておらず、バスケットコートだったため本館から出るとすぐにセンターが見えていました。旭出の長い歴史を見守ってきてくれた存在です。



相談室  
(まんまるA活動場所)



1階ホール  
(けんざい活動場所)



外観



トイレ



2階ホール  
(旭出生活寮)



玄関ホール

### 製品袋のご紹介

バザー等で製品をお渡しする袋はまんまるやワークの利用者が一枚ずつ感謝の絵を描いています。「製品だけでなくこの袋もとっておきますね」とお言葉をいただくこともありみなさんから好評です。



(落合)

